



明化の教育

2月号（第497号）
令和4年1月31日
文京区立明化小学校
校長 熊倉 勝



表現力について

副校長 松下 由紀子

日本の学校教育では、「表現力」の育成は、思考力・判断力とともに以前より重視されてきましたが、近年、グローバル化に伴い、今まで以上にクローズアップされています。本校でも表現力の育成は非常に重要なことだと捉え、力を伸ばせるよう日々の授業や行事等を通して伸長を図っています。

その一つが、学芸会・音楽会・展覧会等の行事です。今年度は、昨年12月に展覧会を実施しました。子供自身も頑張って製作し、展覧会に満足するとともに、鑑賞した方々からも以下のような感想により賞賛をいただきました。



- ・ 一つ一つの作品に子供の個性が出て、全く同じものが一つもなく、その子らしさが素敵でした。
- ・ 子供たちの素晴らしい想像力と内面の豊かさを感じ、一生懸命作ったのが伝わってきて、温かい気持ちで拝見しました。作品を通して、様々な体験をさせていただきました。
- ・ 子供と一緒に参観しました。嬉しそうに目をきらきらさせて解説してくれました。

他にも「子供の成長が見られ感動した」等、たくさんのお言葉をいただきましたが、どれも表現は違いながらも書かれた方の思いが読むだけで伝わるものでした。人の思い（生命力という大げさでしょうか）は、見えないし聞こえもしません。しかし、発信者の思いや熱意は媒体を通して確実に伝わります。発信者が自分の思いや考えをうまく表現し、相手も感動や楽しさの刺激を受け止めながら、お互いに日々の生活を積み重ねていくことが、人生を豊かにする喜びの一つではないかと考えます。みんなが関わりながら良い気持ちで生活するためにも、その媒体である表現力の伸長への期待は大きいのでしょうか。

子供は一人一人違って、素晴らしい資質をもっています。そして、表現力は本人の資質だけでなく、心に残る様々な刺激や人との交流等を通して磨かれていきます。学校では、自分の考えに自信をもって様々な方法で伝える力を育てる場や課題を用意し、教員や友達との関わりの中から育てています。それでも、表現力を高める一番の機会は、すべての生活を通した毎日の経験の積み重ねだと思えます。例えば、小さい子が日常の中で、トイレに行きたい思いを「トイレ」と単語で伝えることがあります。そこに「トイレがどうしたの」等の問いを大人が発することで「トイレに行きます」とより明確になる表現を学ぶことができます。子供は応用力もあるので、他の場面でも生かそうとしますし、より良い表現ができたことを認めることで、さらに子供の自信につながります。そうした経験をできるだけ多くさせることが表現力の向上につながるのではないのでしょうか。

子供が表現を磨くためには、迷いなく自分の思いを表現できることが必要です。それは、安心して自分を出せる環境にすることが前提となります。子供が伸び伸びと思いを表現できるよりよい環境づくりにご家庭と協力して励みたいと思います。

～2月行事予定の変更について～

現在、まん延防止等重点措置が実施されていますが、新型コロナウイルス感染症感染の終息が見えない状況です。そのため、以下の行事を中止とさせていただきますので、ご理解の程、よろしくお願いいたします。また、昨年緊急事態宣言等により実施を延期している行事もありますが、今後の感染状況により実施が難しい場合は、改めてご連絡させていただきます。

- ・ 5日（土）学校公開 江戸太神楽 ※土曜授業はありません。 ・ 10日（木）学校保健委員会